



News Letter
No. 81
The Iida City Institute of Historical Research

2016年4月1日 発行



飯田市歴史研究所 平成28年度の事業概要

飯田市歴史研究所は、南信州の歴史・文化・風土など地域の価値を探究する学術研究の拠点を目指し、現在の場所から移転の準備をすすめています。

1. 調査研究事業

資(史)料の現状記録調査、歴史的建造物調査、聞き取り調査(オーラルヒストリー)などを実施し、地域の歴史・文化を解明していきます。市民や研究者、大学等の研究機関との協働で行なながら、その成果を研究集会・年報等で公表していきます。



2015年9月5日・6日
第13回飯田市地域史研究集会

① 研究成果の公表(刊行物)

『飯田市歴史研究所年報』14号

② 第14回飯田市地域史研究集会

開催時期：8月20日(土)・21日(日)

テーマ：「飯田藩と地域社会」(仮)

目的：本研究集会では、飯田藩と地域社会の関係を中心に、近世における飯田・下伊那地域について検討することを通じて、地域の歴史および課題等について議論していくことを目指します。

③ 歴史研究活動助成

市域を対象にした研究活動を助成することで人材の育成に努め、研究成果の蓄積を図り、その成果を地域に還元していきます。

④ 定例研究会

研究所のさまざまな研究活動の地域への還元と研究促進のため、研究会を公開で行います。

⑤ 歴史資料調査及び受入資料の整理、目録公開

⑥ 地域の文化遺産記録作成、調査研究事業・地域資源活用助成事業

歴史資料の調査研究と保存・利活用によって、歴史的地域資源に対する住民意識を高めながら、まちづくりや世代交流の素材としても再認識できる環境を整えていきます。

2. 学習協働事業

さまざまな学びの機会を提供し、市民のみなさんが暮らしている地域を知り、地域を誇りに思う心を培い、人材を育む地域の力を高めていきます。併せて調査研究や教育を行う人材の育成を目指します。史料調査や古文書解読、研究などを地域の研究団体と協働して行います。

① 地域史講座の開催

飯田・下伊那の歴史を題材とした最新の地域史研究の成果について発表します。



2015年6月6日飯田アカデミア第74講座
「魅力ある風景を未来へ
－文化的景観の見方、守り方、使い方－」

② 飯田アカデミアの開催

歴史学を中心とした外部の講師による大学専門課程レベルの学術講座を開催します。

③ 飯田歴研ゼミナールの開催

近世史ゼミ、わが町の建築史ゼミ、近現代史ゼミ、満州移民研究ゼミ、思想史ワークショップを開催します。

④ 学校教育や民間の研究グループ等との連携

「職場体験学習」の受け入れや、高校・大学の特別講義、学校・地域の団体・サークルを対象にした「出前講座」への出講をします。

⑤ 市民研究員の研究活動指導・支援



中学生職場体験学習



わが町の建築史ゼミ

3. 市誌編さん事業

歴史研究所の調査研究活動の成果を集約公開し、この地域の歴史と文化を身近に感じられる取り組みを行ないます。

満洲青少年義勇隊の様子を視察に行った小学校長 宮下功氏の記録集である『満洲紀行』、飯田・下伊那史料叢書3『熊谷家伝記』を出版します。

4. アーカイブズ保存活用事業

地域で育まれてきた歴史・文化の記録は、市民のみなさんにとってかけがえのない貴重な財産であるという観点から、地域に残るアーカイブズ(歴史資料)を収集・保存・公開し、市民や研究者が積極的に活用できる体制・環境を整えます。

① 旧役場文書や学校など公的機関の歴史資料の保存・公開・活用

② 市役所の非現用文書の保存

③ 歴史資料の保存(デジタル化を含む)・継承の支援および公開

5. 地域に開かれた研究所をめざして

市民のみなさんからのご意見をふまえながら、計画的な調査研究活動を展開していきます。

歴史研究所協議会を開催して、市民のみなさんと連携した事業の推進を図ります。

調査研究によって整理蓄積された収蔵史料や目録などの情報は積極的に公開を進め、市民のみなさんや研究者等の閲覧や利用に関するサービスを提供します。

さらに、ホームページの充実や広報などを通じ歴史研究所の諸活動を広く市民のみなさんに紹介していきます。

また、情報誌「歴研ニュース」を発行します。

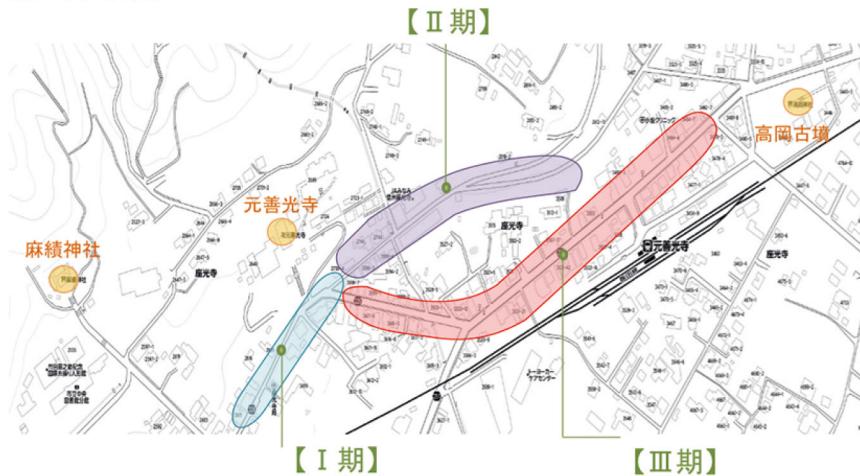
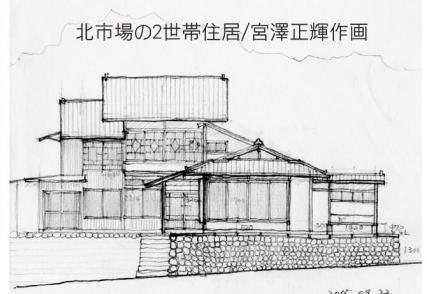
飯田・下伊那の歴史と景観 その1

今号から、毎回一つの地域を取り上げ、飯田・下伊那で営まれた暮らしやその変遷を伝える歴史的景観を紹介するコラム記事を連載します。



座光寺地区は、天竜川の河岸段丘とその支流によって運ばれた堆積物による扇状地から天竜川の氾濫原に形成された集落です。地名の由来は、奈良・平安時代にこの地に所在したとされる「寂光寺(じやっこうじ)」の名称にあるとする説があります。特に段丘下の扇状地が古代よりこの地域の行政上の要所であったことは、高岡古墳周辺の古墳群の存在が示しています。一方で時代により地域の中心地が変遷し続けた場所でもあり、現在の街並みにみられる変遷の痕跡は、近世にまでさかのぼり、大きく3つに分けられます。

現在は、平成39年(2027)に開通が見込まれているリニア中央新幹線駅の整備により、伊那谷の玄関口として活性化が期待されており、地域の歴史的景観への意識が高まっています。



座光寺地区における繁華街の変遷(わが町の建築史ゼミ座光寺WG作成)

I期) 近世以前の成立とされる麻績神社の参道から如来寺(元善光寺)にかけて、寛政年間(1789~1801年)には各業種商店が立地し、明治10年頃(1877)までに市場商店街が形成されました。現在も当時の菓子店跡が残されています。

II期) 明治34年(1901)如来寺前の道路改修と段丘下を通る竜西線の開通により、北市場商店街が形成され、製糸工場、醤油工場と労働者の住居等、40軒が軒を並べました。現在も当時の長屋が残されています。

III期) 大正12年(1923)元善光寺駅の開業により、駅前通り(旧国道)が新設されると、市場と合わせて90軒以上が並ぶ商店街が形成され、郵便局や劇場も建てられたが、昭和59年(1984)に座光寺バイパスの開通により衰退しました。

*I『座光寺史』(座光寺史刊行委員会発行、1993)

平成27年度研究助成報告会が開催されました

3月5日に上郷公民館にて行われた
助成対象研究報告をご紹介します

「記録と記憶・経験の継承」長野原歴史研究会

代表の原田忠治氏より、今年度の取り組みであった「大井川・伊賀良井」の竜西水路整備の歴史に関する調査の成果を報告していました。本研究は、村史や大井川に関連する近世の古文書、長野原地区内の現状の取水口の位置や寸法、大正、昭和の写真資料、地図資料を用いて、複合的な視点により行われたものです。この活動は地域住民の苦心の末に整備された水路の歴史や丘陵地に立地する伊賀良地区の地域特性を明らかにするものであり、また景観として残る水路の文化的な価値を裏づける成果だと思われます。



「古代伊那郡の具体的な姿・風景」

長野県考古学会 上・下伊那学会員有志

本研究は、7世紀後半から10世紀前半にかけての考古資料を整理し、集成することで、古代伊那郡及び伊那郡衙の具体的な姿・風景を探ろうとするものです。本年度には、伊那郡における集落の立地とその継続性、そして土器(瓶や杯など)の形態を年代ごとに分類する基礎的な作業を中心に行い、遺跡などの現地調査も行っています。また調査途上ではあるものの、今後のさらなる研究の発展が期待されます。



海苔にはまってます

吉田 伸之 歴史研究所所長



私が最近おもに勉強しているのは、近世の江戸とそのまわりの社会のようすについてです。ここ3~4年ほど、とくに江戸の南はじ、品川から六郷川(多摩川)あたりの歴史に興味をもって、あれやこれやと調べています。この一帯、江戸時代には武蔵国荏原郡の品川領・六郷領と呼ばれ、そこには多く村々と一部の町も属しました。こうした村々などを含み一定のまとまりのある社会や空間の拡がりを「地帶」と呼ぶことにしています。

この地帯の大半を占める村々は、多くが農業一水田や江戸向けの近郊野菜栽培一を営んでいました。しかしそれだけではなく、江戸時代最大の都市・江戸のすぐ隣りにあたることから、いくつかの特徴を持っていました。例えば、東海道がこの地帯の海岸部を南北に走ります。品川宿から、六郷の渡しを越えて川崎宿へといたる幹線道路を行き来する多数の人々や大量の荷物。これらの運送労働に携わる人々が多様に存在したわけです。また、この地帯の東側部分が江戸の内海(東京湾)に接することから、海と深い関わりを持つ生業が存在しました。一つは南品川、大井村、羽田の各漁師町が独占する漁業です。そして、それ以上に大きな比重をもったのが、品川から羽田の手前に広がる広大な遠浅の海で営まれた海苔の栽培・生産でした。

私の住んでいる大田区池上には、昔からの海苔屋さんが数軒存在します。みなれた風景なのでさして特別なことは思わなかったのですが、大森から蒲田にかけてこうした海苔屋(大森本場乾海苔協同組合)が現在も60軒近く存在し、全国の海苔流通のセンターとなっているのを知ると、これはただごとではないと思わざるをえません。海苔は17世紀後半に大森で発明されたということで、18世紀には大規模な生産が行われています。その中心を担ったのが大森村(三大森村)で、また近隣の糀谷村や大井村などでも海苔生産が盛んとなりました。このうち良質な海苔は幕府への「御膳御用」品とされ、江戸浅草の海苔問屋らが生産地までの全体を統括し、「浅草海苔」として江戸の名産となります。こうした海苔の生産・加工・流通・販売、これらに関わった人々、海苔生産が盛んとなる村々内部のようすなど、知りたいことが沢山で来ました。今は史料を少し宛集めて読んでいるところです。その内、成果のようなものが出ましたら、何かの機会にご報告させていただこうかと思っています。

歴研 Q & A

飯田市歴史研究所には、日々多くのご質問が寄せられています。その中から重要なものや興味深いものを選び、このコーナーで随時ご紹介ていきたいと思います。

Q 堀氏は飯田へ来る前はどこにいたの



A 堀氏は飯田に来る前には、下野国烏山(現在の栃木県)というところを治めていました。堀氏はもともと美濃国(現在の岐阜県)に起源をもつ武士で、はじめ斎藤道三に仕えました。後に織田信長に仕え、堀秀政は長浜(現在の滋賀県)の城主となっています。本能寺の変後には秀吉に仕え、越前国北庄(現在の福井県)、越後国蔵王堂(現在の新潟県)と各地を転々とし、堀親良の代に烏山へ移されました。なお秀政の従兄弟である直政の家系は、後に越後国各地や信濃国須坂などで大名となっています。そして親良の子親昌の代の寛文12(1672)年に飯田へ移され、以後堀氏が幕末まで飯田を治めました。脇坂氏も、もともとは伊予大洲(現在の愛媛県)を治める大名でしたが、元和3(1617)年に飯田へ移され、その後飯田から播磨国龍野(現在の兵庫県)へ移り、その後幕末までその地を治めています。ちなみに飯田にいた脇坂安元と堀氏の墓所が、現在、上飯田の長久寺に有ります。



飯田城主堀家墓所

このように、様々な理由から、大名らの支配地が変更されることを「転封」(国替)と言います。ちなみに家が断絶となるのが改易です。近世の初期にはこの転封が、政治的な理由や加増・減封、あるいは改易などのため、頻繁に行われました。特に関ヶ原の戦いの直後には、転封と改易が全国規模で同時期に行われました。江戸幕府が開かれても、この転封はしばらくの間、頻繁に行われていましたが、三代将軍家光の時代以降は、転封もあり行われなくなり、一部の大名を除いて領地が固定されるようになりました。(千葉研究員)

※もっと知りたい方へ:『飯田・上飯田の歴史』上巻、『下伊那史』第七巻をご覧ください。

受講生募集

スタッフとともに
歴史を学んでみませんか。
場所：歴史研究所 研修室

お知らせ

2月末をもって自分史ゼミは
終了となりました。

ゼミ・ワークショップの詳細につきましては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

歴史研究所催事スケジュール

2016年 4月

2016年 5月

NL81発行	金	1	日
満州移民研究ゼミ	土	2	月
	日	3	火
	月	4	水
近世史ゼミ	火	5	木
思想史ワークショップ	水	6	金
	木	7	満州移民研究ゼミ 土
	金	8	日
近現代史ゼミ	土	9	月
	日	10	近世史ゼミ 火
	月	11	水
	火	12	木
	水	13	金
	木	14	近現代史ゼミ 土
	金	15	日
	土	16	月
	日	17	近世史ゼミ 火
	月	18	思想史ワークショップ 水
近世史ゼミ	火	19	木
思想史ワークショップ	水	20	金
	木	21	定例研究会 土
	金	22	日
近現代史ゼミ	土	23	月
	日	24	火
	月	25	水
	火	26	木
	水	27	金
	木	28	近現代史ゼミ 土
	金	29	日
	土	30	月
	日	31	火

開所時間：午前9時～午後5時

休 所 日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日

■ 休所日 ■ 開所日

近世史ゼミ

19:00～20:40

担当：千葉拓真（研究員）

近現代史ゼミ

13:30～15:00

担当：田中雅孝（調査研究員）

思想史ワークショップ

19:00～20:40

市民の皆さんのが自主的に学び合う場

わが町の建築史ゼミ

18:30～20:00

担当：樋口貴彦（研究員）

満州移民研究ゼミ

10:00～11:40

担当：本島和人（調査研究員）

定例研究会

「生類憐みの令をめぐる飯田藩と江戸幕府
—元禄二年令にかかる動向を中心に—」

開催日：5月21日土

報告者：千葉 拓真（研究員）

時 間：14:00～16:00

場 所：飯田市歴史研究所 研修室

※定例研究会はすべて公開で行っています。どなたでもご参加いただけます。

飯田アカデミア2016 第77講座

堀親窓・後藤三右衛門と天保期の幕政

飯田藩の10代藩主であった堀親窓は江戸幕府内で昇進を
続け、老中格となって、水野忠邦らとともに天保の改革を
推進しました。また飯田町大横町の林弥七の子として生
まれた後藤三右衛門は、江戸の金座後藤家の養子となり、水
野のブレーンとして活躍することになります。

本アカデミアでは、飯田にゆかりのあるこの二人の人物
に注目しながら、天保の改革前後の幕府政治について述べ
ていきます。

6月25日 土 第1講 13:30～15:00 / 第2講 15:20～16:50

6月26日 日 第3講 10:00～11:30 / 第4講 13:00～14:30

講 師 藤田 覚さん（東京大学名誉教授）

会 場 上郷公民館（飯田市上郷飯沼3092-9）

受講料 500円（2日間共通資料代）

※1日のみ、または1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史
研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

ジュニア・ライブラリー3

飯田・下伊那の災害

文 吉田忠正 / 監修 飯田市歴史研究所

B5判 堅牢製本 49頁 オールカラー

本体価格 1,500円[税別]

発売中!

オーラルヒストリー2

戦争と養蚕の時代を かたる

飯田市歴史研究所 編集・発行 / B5判 並製 294頁

本体価格 1,100円[税別]

